1－5　令和２年度「香芝市教育委員会　・大阪教育大学共同研究」　報告

担当：教育アセスメント部門（仲矢　史雄，鈴木　剛　記）

教育イノベーションデザインセンターでは，大阪教育大学が令和元年度から立ち上げて活動してきた「データを活用した教育の質改善プロジェクト」（令和２年度代表：教育イノベーションデザインセンター長　鈴木　剛）の一環として，「大学連携によるデータを活用した香芝市学力向上推進研究事業」をテーマに，香芝市教育委員会と共同研究を進めている。

本共同研究では，香芝市と大阪教育大学との連携のもと，令和元年度に実施された全国学力・学習調査等のデータを専門的に分析し，香芝市の児童生徒や各学校の学力向上に対する効果的な指導改善を図ることを目的としている。具体的には，香芝市の児童生徒の小学校国語の無解答数が多いことが課題として上がっており，この無解答の改善に向けて，各種調査や分析を行い，データに基づいて取り組むべき事項を得て，指導改善にあたる。

香芝市では，全国学力・学習状況調査における高い無回答率の原因究明と，その克服を課題としている。その中で，本センター教育アセスメント部門の仲矢史雄により分析された「子どもたちの読解力」の向上に焦点をあて，令和２年度は国語科を対象にした研究を推進した。令和元年度の仲矢の分析により，無解答・記述不足は表現力の不足であり，「何を書くか，どう書くか，が分からない」という問題であると認識されたため，令和２年度は，大阪教育大学国語教育部門の井上博文教授による「国語科からのアプローチ」として，『説明文読解力と表現力の養成』の研修・指導を，香芝市の小学校教員に対して行なった。実施体制としては，研究指定校を４小学校，研究協力校を２小学校の編成で行うことが，令和２年６月 23 日（火）の共同研究打ち合わせにおいて決定した。以下，井上教授と仲矢により行われた取り組みの概略を示す。

１．研究協議会

教員の研鑽と打ち合わせのため，以下の通り研究協議会を開催した。参加メンバーは，井上教授，研究校・研究協力校の教員，研究授業当該小学校の教員管理職・研究主任等，および香芝市教育委員会担当である。

令和２年６月 23 日（火）
読解力を養成し深めるための国語科からのアプローチ−説明文章の場合−

令和２年７月９日（木）
読解力を養成し深めるための国語科からのアプローチ−具体的な取り組みにあたって−

令和２年８月６日（木）
説明文的文章の読解力を養成し深めるための国語科からのアプローチ（下記※参照）

令和２年 10 月 12 日（月）
研究授業前指導①（指導案の検討と改善アドバイス）
教材「固有種が教えてくれること」（光村図書小学校５年教科書）

令和２年 11 月５日（木）
説明文読解の観点（研究授業参観後）
参加者から授業者への質疑応答
グループ討議と全体発表
井上教授からの授業解説とアドバイス
香芝市教育委員会（村上先生）からのアドバイス
当該校の校長からの謝辞と取り組みの説明

令和２年 12 月１日（火）
情報の吟味と説明の順序への着目

令和３年１月７日（木）
研究授業前指導②（指導案の検討と改善アドバイス）
教材「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書小学校５年教科書）

令和３年１月 26 日（火）
書くことの学習活動への織り込み−読解力を養成し深めるために−（研究授業参観後）
参加者から授業者への質疑応答
グループ討議と全体発表
井上教授からの授業解説とアドバイス
香芝市教育委員会（村上先生）からのアドバイス
当該校の校長からの謝辞と取り組みの説明

令和３年２月５日（金）
事例と意見の関係−事例の変化への着目−

※上記８月６日（木）の研究協議会については柏原キャンパスで行われ，本学ホームページのトピックス（2020 年８月 18 日）において次ページの通り紹介された。

香芝市・大教大共同研究プロジェクト研修会を実施

香芝市教育委員会との共同研究の一貫で同市教員対象の研修会を8月6日（木）に柏原キャンパスで実施しました。
本学では令和元年度から「データを活用した教育の質改善プロジェクト（代表：鈴木剛教授）」を立ち上げ，その取り組みの一つとして本学と香芝市教育委員会と「大学連携によるデータを活用した香芝市学力向上推進研究事業」をテーマに共同研究を進めています。
香芝市及び奈良県では，全国学力・学習状況調査による高い無回答率の克服を課題としており，理数情報教育系の仲矢史雄教授によるデータ分析でこの要因の一つとして「子どもたちの読解力」の向上が明らかになったことをうけて，令和2年度は特に国語科に焦点を当てた研究を推進しています。そこで今回は，「説明文的文章の読解力を養成し深めるための国語科からのアプローチ」と題した研修会を実施しました。子どもたちが説明文の読解力をつけるための授業づくりに関する講義とワークショップからなるこの研修会には，香芝市の小学校の教員23人が参加しました。
講師を務めた多文化教育系の井上博文教授は，「説明文の読解力をつけるためには，子どもたちが説明文スキーマを身につけていくことが有効ではないか」「日頃から子どもたちが表現したことに対して先生がポジティブな反応を返すことで，子どもたちは積極的に表現しようという気持ちになる」と話しました。その後のワークショップでは，講義で説明のあった内容を参考に，参加者が日頃使用している教科書の単元を題材とした教材研究を行いました。
研究指定校の公開授業での指導・助言等を通して，引き続き香芝市の子どもたちの読解力養成に向けた研究を進め，この後，事前の学力調査と学習アンケートを実施し，年度末に予定している事後調査と比較する仲矢教授によるデータ分析を行う予定です。

研修会の様子

２．研究授業

井上教授の指導の下，研究指定校の４小学校において，各５年生一クラスを対象に，以下の通り実施された。

令和２年 11 月５日（木）・小学校Ａ・45 分
（資料を用いた文章の効果を考え，自分の考えをまとめよう）

令和２年 12 月１日（火）・小学校Ｂ・45 分
（資料を用いた文章の効果を考え，自分の考えをまとめよう）

令和３年１月 26 日（火）・小学校Ｃ・45 分
（事例と意見の関係をおさえて読み，考えたことを伝え合おう）

令和３年２月５日（金）・小学校Ｄ・45 分
（事例と意見の関係をおさえて読み，考えたことを伝え合おう）

３．事業の効果検証

令和 3 年度の以上の取り組みの効果検証については，仲矢により以下の通り進行中である。令和２年３月中に概要を作成し，令和３年度に詳報を提供の予定である。

1. 事前調査解析

① 研究指定校と調査協力校の対照性事前分析

研究指定校の今年度の取り組みの効果を解析するため，基準となる調査協力校から評価・アンケートデータの提供を受けた。対照群になる調査協力校の特性が，研究指定校と事前調査の段階で有意に異なっている場合は，効果検証を行うことが困難になるため，現段階でχ^2検定による分析を行った。

検定の結果，研究指定校と調査協力校の間に有意差は見られなかった。この結果により，研究指定校の事前事後の分析に際し，調査協力校のデータを対照に用いることの妥当性が検証された。

② 各研究指定校・調査協力校の特徴クラスター解析

国語学力調査事前結果から，各研究指定校・調査協力校の特徴の類似度をクラスター分析した。

③ 各設問の特徴クラスター解析

国語学力調査事前結果から，各設問の特徴の類似度をクラスター分析した。

2. 今後の事前事後調査解析

④ 研究指定校の事前事後の効果分析

⑤ クラスタリングによって類似傾向が示された要素の相互関連を，事前事後データ比較し分析。

⑥ 設問無回答の学習者に着目し，事後に記述の増加が見られた群の特性を解析。